

動物用ワクチンの添加剤として使用する成分

1 評価要請の背景

- (1) 動物用ワクチンには、接種動物に十分な免疫を付与するために免疫反応を増強する成分（アジュバント）を含有するものがある。これらのワクチンには、アジュバント等が注射部位から消失するまでの期間に基づき、使用制限期間（と畜場等への出荷前のワクチンを接種しないこととされている期間）が設定されてきた。
- (2) 平成26年に、農林水産省は、食品安全委員会に評価を要請し、使用制限期間の設定の考え方を見直し、食品安全委員会において「動物用ワクチンの添加剤として使用される限りにおいて人への健康影響は無視できると考えられる」と評価された成分のみを添加剤として使用するワクチンは、使用制限期間の設定を不要とした。
- (3) 以上を踏まえ、今般、動物用ワクチンの添加剤として2に掲げる成分を使用することについて食品健康影響評価を要請するものである。

2 評価を要請する成分

- ① ジパルミトイルホスファチジルコリン
- ② ソルビン酸
- ③ モノホスホリルリピッドA【MPLA】
- ④ ジンセン抽出物【ニンジンサポニン】
- ⑤ 水酸化アルミニウム
- ⑥ カナマイシン【カナマイシンA】

※【 】内は別名